

製品リサイクルの推進

国内外での使用済みIT製品の回収・再資源化を推進し、資源循環型社会づくりに貢献しています。

海外におけるリサイクルシステムの構築

富士通グループは、使用済みIT製品の処理に関して、生産者としての責任を認識し、1995年に日本において事業系IT製品リサイクルを法律に先駆けて開始したのを皮切りに、積極的に製品リサイクルを推進してきました。海外でのリサイクルに関しては、欧州などの各国・地域のリサイクル法に従うとともに、富士通グループでは、第4期環境行動計画における目標の一つとして、北米・アジアでのリサイクル体制構築に取り組んできました。

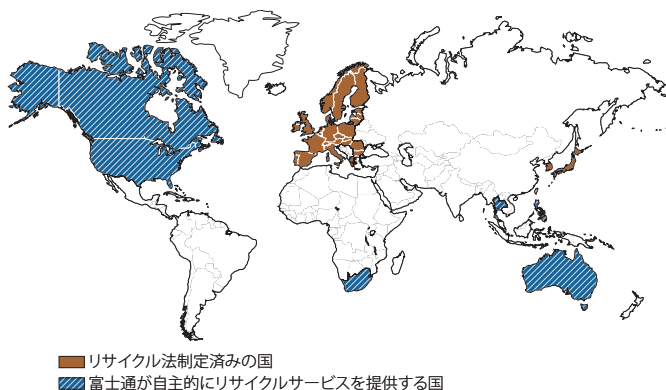
その成果として、2007年6月までに、アメリカ、オーストラリア、カナダ、フィリピン、シンガポールにおいて、IT製品リサイクルサービスを開始しました。さらに、今後タイにおいて2007年10月までにリサイクルサービスを開始することを計画しています。

構築にあたっては、日本での経験や海外政府のガイドラインなどを参考に統一されたリサイクル業者選定基準を作成し、その基準によって各国でリサイクルパートナーを選定し、契約しました。このシステムにより、富士通グループはお客様より回収した使用済みIT製品をリサイクルパートナーにて、適切に処理するサービスを提供します。

これまでの取り組み例として、Fujitsu Australia Ltd.はIT製品リサイクルサービスを2006年4月より開始し、現在までに同国の大手小売企業を対象に約250トンの使用済みPOSシステムのリサイクルを行いました。

さらに、Fujitsu Philippines, Inc. (FPI) グループはパイロット

海外におけるリサイクルサービスの状況



- ※ タイについては2007年10月からのサービス開始となります。
- ※ 南アフリカのリサイクルサービスは富士通・シーメンス・コンピューターズの取り組みです。

プロジェクトとして、2006年7月から2007年2月までの間にFPIグループおよびそのお客様からの電子廃棄物27トンのリサイクルを行い、2007年5月から、IT製品リサイクルサービスを正式に開始しました。

北米での取り組み(富士通コンピュータシステムズ)

富士通コンピュータシステムズ (FCS) は、幅広いハードウェア製品、ソフトウェア製品とサービスを北米で提供しています。製品と事業所での活動の両側面において環境への配慮を行いながら、ビジネスを展開しています。すべての州法、および連邦法の遵守を徹底するほか、とくに製品リサイクル、事業所から出る廃棄物のリサイクル、エネルギー効率の3分野に重点的に取り組み、本社、カスタマーサポートセンターのエネルギー消費を削減、および排出されるほぼすべての廃棄物をリサイクルすることに成功しています。2006年度には電池のリサイクルプログラムを開始、また政府のグリーン購入の要求に応えるためにEPEAT (グリーン購入のための製品評価登録制度) へ製品登録を開始しました。さらに2007年4月には使用済みノートパソコンのリサイクルプログラムを立ち上げました。FCSの事業活動が及ぼす環境影響には、お客様も関心を持っています。FCSは、環境への配慮をビジネスに不可欠な要素として、これからも継続的に環境負荷低減に努めていきます。

国内におけるIT製品回収・リサイクルの推進

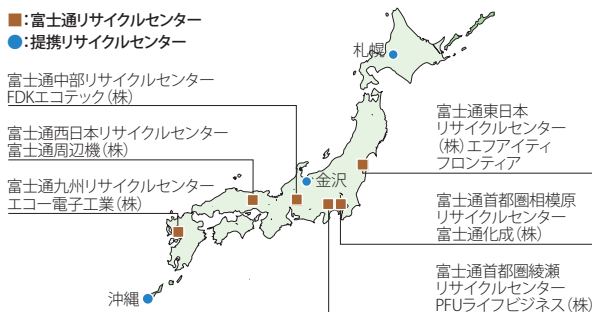
富士通は産業廃棄物広域認定制度の認定業者として、日本全国をカバーするリサイクルシステムを構築し、各種契約手続きを含めた産業廃棄物の適正処理を全国規模で受託しています。徹底したトレーサビリティとセキュリティを確保しながら、90%を超える高い資源再利用率を達成。安心安全なサービスの提供により、拡大生産者責任 (EPR) を確実に実践しています。

また個人のお客様の使用済みPCは、日本郵政公社との提携による、全国の郵便局を利用した業界共通の回収システムにより回収・再資源化しています。

富士通リサイクルセンターの所在地

関係会社・パートナー会社が運営する富士通リサイクルセンター6拠点と、収集運搬会社28社との契約による全国規模のシステムを構築。2007年4月から北海道、北陸、沖縄の3都市にも提携リサイクルセンターを設置し、お客様の利便性を向上しました。

全国を網羅する富士通リサイクルセンター



リサイクル実績

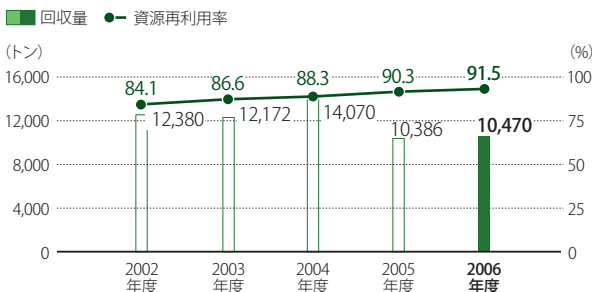
2006年度は法人のお客様から10,470トンのIT製品を回収し、資源再利用率※が91.5%となりました。これにより、第4期環境行動計画の目標値を達成しました。

個人のお客様の使用済みPCの回収・再資源化量は、ノートPCおよび液晶モニターが大幅に増加し、70,005台となりました。

※ 資源再利用率

事業系使用済みIT製品の処理量に対する再生部品・再生資源の重量比率。

事業系使用済みIT製品の回収量と資源再利用率の推移



適正処理の確実な実践

富士通は統一リサイクル処理基準を全国すべてのリサイクルセンターに適用。一つひとつ手分解して鉄、銅、アルミニウム、貴金属類、ガラス材、20種類のプラスチックなど素材ごとに分別し、

ぎりぎりまで廃棄物を減らす努力を重ね、再びさまざまな製品を作るための資源に戻しています。

セキュリティシステム

リサイクルプロセスにおいて発生し得るさまざまなリスクは、二重、三重のセキュリティ対策を講じることによって安心安全なリサイクルサービスを確立しています。



リサイクル統合情報管理システム

回収した製品にバーコードを貼付け、受入から解体、最終処分までのリサイクル工程の履歴を顧客ごとにWeb上で管理できるため、盗難や不法投棄などの防止につながります。



監視カメラシステム

リサイクルセンターでは受入品の保管状況やリサイクル処理プロセスを各エリアのカメラが常時モニタリングしています。

第5期環境行動計画目標について

製品リサイクルに関する新たな活動方針として「回収した使用済み製品の資源再利用率※を拡大」を掲げ、第4期環境行動計画で達成した事業系IT製品の資源再利用率90%を維持しながら、資源再利用率を2009年度末までに2005年度実績比15%向上する目標を設定しています。

管理対象のグローバル化

国内における事業系IT製品から、家庭系PC、海外IT製品もリサイクル対象として加えて資源再利用率の拡大を図り、環境負荷低減、資源循環型社会の構築に寄与していきます。

※ 資源再利用率

回収した使用済み製品を処理してリユースまたは、マテリアル素材としてリサイクルした量。